

自分たちの地域は自分たちで守る

大災害で多くの人が救助を求める事態になると、警察や消防がすぐに救助に駆け付けられるとは限りません。そこで重要になるのが地域の人々の助け合いです。特に地域の高齢者に対する援助においては、地域の人々の力が欠かせません。

地域の助け合いの重要性を人命救助をした人の内訳で見ると、阪神・淡路大震災では、倒れた建物から救出された人の約6割が、「近所の人」によって救出されたという調査結果があります。

大きな災害では、消防や警察自身が被害を受けたり、また、多くの救助要請があつて、災害現場に到着するまでに相当な時間がかかることがあります。

被害を減らすためには、住民同士が助け合い、人命救助や初期消火を行うことが大切です。

そこで、日頃から挨拶をかわしたり、消防・防災訓練などに参加することで、ご近所との付き合いの輪を広げておきましょう。

もしものとき、自分や家族の身を守るのは、たったひとつの知識、たったひとつの道具、たったひとつのコミュニケーションかもしれません。

大災害が起きてから後悔しないように、今すぐ「自分の身は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちで守る」という心構えで防災アクションを始めましょう。

参照：東京防災、埼玉県危機管理・防災に関する「地域住民向け行動マニュアル」



植栽委員会からのお知らせ

植栽委員長 大石正樹

光の広場（うさぎさん広場）遊具更新工事が始まっています。

工事開始にあたって、30年あまりにわたってたくさんの子供達が遊んだ木製遊具の前で、理事長・植栽委員長以下関係者有志で、感謝のこたばを手向けました。



既存の遊具とのお別れは寂しいものがありますが、解体を始めてみると、古くもろくなった木材は崩れるように壊れ、錆びた釘は抜こうとしても折れるものがあり、すでに寿命を迎えていたことが裏付けられました。

この広報がお手元に届くころ、工事は半ばを過ぎ、新しい遊具が姿を見せていることでしょう。工事は順調に進んでいて、12月下旬には新しい遊具で遊べるようになる見込みです。

工事中、植栽委員会は状況監視につとめます。何かお気づきの点があれば、管理センター経由植栽委員会へお知らせください。